

㊦ (小計 60点)

問一 (10点) いつもは、相手が必要以上に気をつかうが、今回はぼくが車いすに乗っていなかったので健常者のように見え、相手が余計な意識をせずにぼくに接したということ。

問二 (14点) 車いすからはなれ、健常者同様のあつかいを受けるといふ小さな勝利を収めたが、自力で車いすに乗れず、全てをひとりでするといふ大きな戦いに負け、今後も他人にたよって生きるしかないと感じているということ。

問三 (8点) カウンセラーは、ぼくを理解しているようなことを言っているが、ひとごとのような発言をするので、ぼくはいらだちを感じ、出て行ってくれてよかったと思っている。

問四 (14点) ぼくがもがき苦しんでいた時に友達がふざけていたことを聞き、悲しかったが、この施設で生きていくのであれば友達に話を合わせて楽しく付き合った方が正解かもしれないと思ったから。

問五 (14点) ぼくを赤ちゃんあつかいする母さんと比べて、父さんは散歩に行く際、ぼくがごくふつうのしたくをしているように接してくれたので、ぼくの自立したい気持ちを応援してくれる存在だといえる。

㊧ (小計 30点)

問一 (14点) 鑑賞者も画家も絵をはさんでお互いの心の動きをみることで、そして、鑑賞者の心身の状態によって絵の印象も変化するものである。一つの絵と何度も向き合うことが大切なのに、一度見ただけで満足しているのはまちがった鑑賞法であるから。

問二 (16点) 絵を通じて知らない画家と言葉や心を通わすトレーニングを行うことで、想像力・創造力・空想力・喚起力といった感性をみがくことができ、人や物の持つ真の価値を見極める美の物差しを鍛えることにつながるから。

㊨ (小計 10点)

- (2点×5)
- | | |
|-----|------|
| (1) | 高層 |
| (3) | 護衛 |
| (5) | 玉石混交 |
| (2) | 拝観 |
| (4) | 適切 |

【出典】

㊦ クロディイヌ・ル・グイックルプリエト著 坂田雪子訳

㊧ 『テオの「ありがとう」ノート』

㊨ 窪島誠一郎『絵をみるヒント』